

CEATEC 2019、10月15日に開幕

「Society 5.0の総合展」としてCPS/IoTなどのテクノロジーを活用した未来社会を発信

最先端の家電見本市から 共創をテーマとする Society 5.0 の総合展へ

CEATEC 2019(主催:一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)など)が10月15日(火)に開幕する。会場は幕張メッセ(千葉県千葉市)で、18日(金)までの会期4日間で、約15万人(昨年実績)が訪れる見込みだ。

CEATECは、デジタル家電の祭典とし家電見本市のイメージが強かったものを、2016年にそのイメージを一新。開催テーマに「つながる社会、共創する未来」を掲げ、CPS/IoTなどのテクノロジーを活用した未来社会を発信する展示会へと大きく舵を切った。いまでは、業種や産業を超えた連携による事業創出や世界各国との政策連携なども含めた「共創」を生み出す場として、毎年新たな出展者を迎えながら、「Society 5.0の総合展」として、業界の垣根を超えて、幅広い業種の企業や団体が集まる展示会となっている。

注目は、複数の企業の共創により、 2030年のまちを構築する「Society 5.0 TOWN」

Society 5.0で社会はどう変わっていくのか、未来の生活はどうなるのか、会期中は多様な業種・産業の出展者がそれぞれの将来ビジョンや先進的な取り組みを披露・発信するが、中でも注目は、企画展示「Society 5.0 TOWN」。ANAホールディングスや大成建設、関西電力や大阪ガスなどの初出展企業をはじめとする24社/団体が参画し、「2030年の未来のまち」で実現が見込まれる多様なサービスを披露する。また、企業同士の共創事例を発信する共創ゾーンを初めて設け、従来の個社ごとの展示だけではない、新たなスタイルが展開される。

各産業のリーダーが集結する 基調講演「CEATEC KEYNOTE」

展示だけではなく、多彩なコンファレンスが100以上開催されるのもCEATECの魅力だ。特に基調講演である「CEATEC KEYNOTE」には、ANAホールディングスの片野坂真哉社長やJTBの田川博己会長、Japan Taxiの川鍋一郎社長や竹中工務店の佐々木正人社長、広島県の湯崎英彦知事など、各業界のリーダーが登壇して、共創する未来に向けたビジョンを発信する予定だ。基調講演をはじめとする会期中に開催されるすべてのコンファレンスは、公式WEBサイトから聴講予約をする必要があるため、コンファレンスの聴講を希望する場合は、来場前に忘れずに予約をしていただきたい。

Society 5.0 の実現を支える、 次世代の IoT 人材を応援

Society 5.0の社会で活躍が期待されているのは、次世代を担う学生たちだ。CEATEC 2019では、学生の来場者に対して、「学生交流ラウンジ」を初めて設置し、学生の会場見学や業界情報収集をサポートするコンシェルジュ機能を整備する。会場全体を産業界の「オープンキャンパス」に見立てることで、工学系をはじめ、医療や農業などといったテクノロジーを活用する人材も含めた学生のキャリアデザインを支援し、次世代のリーダーたちを応援する。

Society 5.0 に向けた動きが体感できる CEATEC 2019

Society 5.0に向けて動き出した企業の取り組みや最先端テクノロジーを実際に体感する機会として、さらにはこれからの未来を考える機会として、ぜひCEATECの会場へ実際に足をお運びいただき、「共創」に取り組むパートナーを見つけていただきたい。

CEATECの詳細および入場事前登録は公式WEBサイト (<https://www.ceatec.com/>) にて。



2018年のコンファレンス会場の風景



2018年の展示会場の風景